

令和 3 年度 施策評価表

施策	1301	農業の生産性の向上と販路拡大	施策担当部等	産業振興部	部長	下玉利 輝幸
			施策担当課等	農林水産振興課	課長	山田 充哉
施策の方針	省力化機械の導入や地域特性に応じた農産物の振興を行うことで、生産性の向上に取り組む。また、農産物のブランド化と販路拡大や6次産業化等を推進する。					
関連するSDGsのゴール						

【DO（実施）】

基本計画における目標値

指標名	単位	基準値 (H26)	H28目標値	H29目標値	H30目標値	R1目標値	R2目標値	R2年度	
			H28実績値	H29実績値	H30実績値	R1実績値	R2実績値	達成率	進捗率
① 農業産出額（年間）	千万円	374	392 456	399 412	406 409	413 394	420 390	92.9%	92.9%
② 新たにブランド化した農産物の品数	品	—	0 0	1 0	2 0	3 3	3 0	0.0%	0.0%
③ 農業イベントへの年間参加者数	万人	2.5	2.7 2.6	2.7 2.7	2.8 2.3	2.8 1.9	2.8 0.6	21.4%	21.4%
④									
⑤									

施策達成状況の説明

①水稲やみかんなどの作付面積の減及び令和2年7月豪雨による生産量の減や新型コロナウイルス感染拡大の影響による出荷額の落ち込みにより目標を達成できなかった。
 ②新たにブランド化した農産物の品数については0件であった。
 ③農業イベントへの年間参加者数については、「第19回牧場まつり」のほか、直売所などで6回実施されたものの、「おおむら海と大地の感謝祭」や「三浦かんさく市」などのイベントが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となったことで、目標を達成できなかった。

施策経費

(単位:千円)		R2年度 決算	R3年度 予算	R4年度 見込	特記事項
内訳	事業費	278,719	98,763	65,399	
	国庫支出金	0	0	2,405	
	県支出金	4,583	59,623	30,015	
	地方債	0	0	0	
	その他	250	2,849	5,878	
	一般財源	273,886	36,291	27,101	
	人件費	13,030	13,492	-	
フルコスト	291,749	112,255	-		

施策の概要

130101	生産性の向上	生産性の向上を図るため、省資源型施設や省力化機械の導入などによる生産コストや労力の低減などに努めます。また、地域の特性に応じた農産物の生産振興や、品質向上・多収量化などに取り組めます。
130102	農産物のブランド化と販路拡大	農産物のブランド化を推進するため、生産者、JA、行政が連携し、品質向上に取り組むとともに、集出荷施設や選果（花）施設の整備による流通体制の強化を図ります。また、市場調査や積極的なPRを展開することにより、新たな販路の拡大に取り組めます。
130103	6次産業化の推進	農家の所得向上を図るため、付加価値の高い農産加工品等の開発など、6次産業化を促進します。
130104	地産地消の推進	JAや直売所などの関係団体と連携したイベントを通じて、地元農産物のPRを行い、生産者と消費者の「顔が見え、話ができる」関係を構築し、地産地消を推進します。
130105	都市交流型農業の推進	農村地域の活性化や農村環境と景観の保全を図るため、地域資源を活かした農業体験や農家民泊などのグリーン・ツーリズムを推進します。

【CHECK (評価) 施策担当部長】

<p>施策を達成する上での問題点・課題</p>	<p>生産性の向上を図るため、施設野菜の多収量化のための施設整備等に対する補助を進めることで農業生産額の向上を図っている。今後は、アシストスーツの導入等による労力省力化への取組や、ドローン等を活用したスマート農業への取組の推進について検討する必要がある。</p> <p>農産物のブランド化については、大村市青年農業者会（大村4H）が、大村の名産である「ゆでピー」の原料（落花生）をオール大村産でまかなうというスローガンのもと取り組んでいる「大村ゆでピープロジェクト」など、大村産であるという価値を高める取組を推進するうえで、規格外農産物の加工品への利用促進も図りながら進めていく必要がある。特に、農産加工品の開発については、消費者のニーズを把握し、市内事業者との情報交換を行いながら、話題性のある大村産農産物の加工品開発につなげていく必要がある。</p> <p>農業イベントについては、コロナ禍の中でも、国が定めたガイドラインに沿って実施できるようなイベント内容で、地域農業の活性化を図る観点からも継続して取り組む必要がある。</p>
-------------------------	---

【ACTION (改善・改革)】

<p>問題点・課題を踏まえた施策構成の改善・改革や新規事業についての考え方</p>	<p>生産性の向上について、生産量及び収益性の向上を図るため、施設園芸としてトマトやきゅうりなどのハウス新設のほか、いちごやぶどう栽培に必要な機材導入に対し、国や県の補助事業を活用する。また営農型太陽光発電について大村モデルができないか調査研究を行う。</p> <p>農産物のブランド化と販路拡大について、大村産であるという価値を高めブランド化を図るうえで、青年農業者会等生産者で組織された団体、障がい者施設、及び長崎県食品開発支援センターと連携をとりながら、農産物の付加価値向上のための取り組みを支援していく。</p> <p>地産地消の推進について、農業イベントは、コロナ禍で開催が困難な状況であった。しかしながら、令和2年度開催の「牧場まつり」はコロナ対策を行ったうえで実施したところ、前年を超える来場者があった。農業イベントは、生産者と消費者との交流の場であることや地域農業の活性化を図る有効な手段でもあり、「地産地消」はもとより「食の安全」のPRを推進する機会として捉え、「海と大地の感謝祭」や「牧場まつり」等の農業イベントは、県が定めたガイドラインに沿って開催し目標達成に向けて取り組んでいく。</p>
---	--

令和4年度新規事業

事業名 (仮称)	担当課	R4年度見込	対象・事業概要など
		事業費 (千円)	
1			
2			
3			
4			
5			
		0	